

授業科目 西洋美術史特論

Specific Theory of the History of Western Art

担当 関根 浩子

西洋美術史の中からいくつかの主要な問題を取り上げ、それらについて文献や資料（英文を含む）を用いて検討する（院生自身による研究発表を含む）。

たとえば、

- ・ギリシア美術とローマ美術の関係
- ・イタリア・ルネッサンスと北方ルネッサンスの関係
- ・フィレンツェ派とヴェネツィア派
- ・宗教改革と対抗宗教改革の美術
- ・クラシックとモダン
- ・抽象美術と具象美術
- ・二次元の美術（絵画）と三次元の美術（彫刻）
- ・純粋美術と応用美術
- ・文化財の保存・修復

など。

授業科目 日本美術史特論

Specific Theory of the History of Japanese Art

担当 永田 郁

美術史は芸術作品を対象とし、その作品を歴史の中に位置付け、それがどのような環境で誕生し、どのようなものとして存在したかについて、またその意味内容について幅広く探っていく学問である。

その芸術作品の理解にはその芸術作品の造形上の特徴や何時、何処で制作され、といった作品そのものの情報を引き出す必要がある。その第一歩として徹底した「観察」により、その形を言語化することが美術史研究の基礎的な作業となる。それが作品記述（description：ディスクリプション）という作業である。この基礎作業の上に、作品解釈やその作品の歴史的理解が成り立っている。ここでは作品の「観察」を通して、視覚から得た形の情報を言語化するとともに、同時に視覚による観察を通して、その形を「素描」により、その形態を把握することで、形の微細な差異を見分ける美術史研究に必要な基礎的な能力を養うことを主眼とする。

また、本講義では制作論に必要な作品記述や論点などの論文作成の方法も指導していく。